

放牧畜産を核とした持続化経営の実現

(大分県：鷲頭牧場)

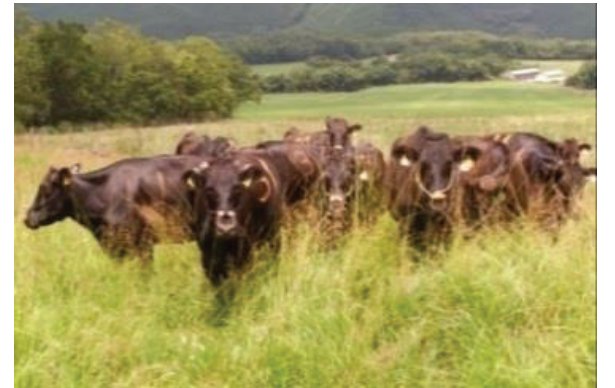
取組項目

飼養管理	良質堆肥の生産	堆肥の広域流通	国産飼料生産・利用	有機畜産	その他(※)
○	○		○		消費者理解の醸成

(※) 畜産GAP、農場HACCP、労働環境の改善、消費者理解の醸成 等該当するものを記入

<取組主体について>

- ・所在地：大分県玖珠郡九重町
- ・代表者：代表取締役 鷲頭 栄治
- ・飼養頭数：肉用牛繁殖和牛 155頭
- ・飼料作物作付面積：25ha
- ・雇用者数：5名 (R4.2時点) (パート含む)
- ・HP等：<http://www.eaglefarm.net/index.html>



放牧地風景

<取組について>

- 概要
 - ・肉用牛繁殖を基盤として農家レストランなどに取り組む。
 - ・家族労働力で3部門(畜産、水稻、レストラン)の多角経営を展開し、県内畜産経営でもトップクラスの実績。
 - ・放牧地(45ha)を利用し年間47頭の放牧を実施。所属している「東部牧野組合」の放牧地で、5月上旬から11月の間放牧をしながら、牧野の維持管理に努めている。
 - ・近隣の未利用放牧地も放牧で利用することで環境保全にも努めている。
 - ・自給飼料生産の実施により粗飼料自給率は92.5%。地域の耕種農家と堆肥交換を行い循環型農業を実践している。
 - ・消費者と直接ふれあい、情報交換を行うため、自家生産農畜産物を届ける農家レストラン「べんこ」を営業。バーベキューやバター作り体験など様々なイベントを企画し、消費者と交流を図るなど、農家が手作りで情報発信する場として積極的に活用し、地域との交流にも努める。
 - ・堆肥舎で好気発酵させて生産した良質堆肥を肥料として、鷲頭牧場内の水田で「特別栽培米コシヒカリ」を作付し、ワラは餌、もみ殻は牛床に使用。生産した米や牛肉などは「べんこ」で利用。
- 今後の課題、目標等
 - ・6次産業化による販売力の強化、消費者との交流の推進による地域活性化等の取組が重要。
⇒6次産業化等の取組の推進(農家レストラン、直売所の経営等)による消費者交流、県外からの観光客の受入れなどにより、観光等を含めた多様な産業間連携をさらに拡大。
⇒多様な消費者ニーズに即した畜産物の生産と加工・流通・販売業者と一体となった取組を支援。



牛舎風景



経営する農家レストラン